

※ポリシーとの関連性 「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能」を教授する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア入門	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上、名嘉座、島袋、生垣、井村、髭白、平山、平良	1年	講義全体の運営および試験関係は、村上研究室(5-629)、murakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、大学生活とその先を考えるために設けられた。たとえば「学生として、今何をすれば良いか分からない」、「将来の進路に不安がある」、「大学生活はこんなはずではなかった」などと感じて日々を過ごしている学生も少なくないであろう。本講義のねらいは少しでもこうした不安を解消していくことをねらいとしている。	メッセージ 【実務経験】実務経験者を招聘したオムニバス講義です。個別質問は、各回の担当教員まで (@以降は省略) : 名嘉座研究室(13-215) : nakaza、比嘉研究室(5-530) : m.higa、島袋研究室(5-635) : ituko、生垣研究室(5-527) : k.ikegaki、井村研究室(5-622) : imura、髭白研究室(5-628) : t.higeshiro、平山研究室(13-211) : atsushi、平良研究室(13-512) : ntaira
	到達目標 1) 卒業後の進路について主体的に考えることができる。 2) 学生生活の経験を「有意義である」と説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (村上)	
	2	労働の実態 (名嘉座)	公的機関の活用
3	卒業生の実態 (比嘉)	キャリア支援課や校友会の活用	
4	卒業生の紹介 (比嘉)	キャリア支援課や校友会の活用	
5	海外を知る1 (生垣)	インターンシップ説明会への参加	
6	海外を知る2 (生垣)	インターンシップ説明会への参加	
7	正規/非正規 (島袋)	家族や知人との面談	
8	キャリアとお金 (島袋)	家族や知人との面談	
9	ホワイトカラー/ブルーカラー (島袋)	家族や知人との面談	
10	ブラック企業/ブラックバイトを知る (井村)	公的機関の活用	
11	母校を知る (髭白)	本学「年史」の精読	
12	社会人基礎力を知る (生垣)	模擬面接の実施	
13	自分を知る (平山)	模擬面接の実施	
14	キャリア支援課の利用方法 (平良)	キャリア支援課の活用	
15	まとめより学びを深められる科目の説明ー (村上)	関連科目のシラバス確認/履修	
16	期末試験 (村上)		
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に指示する。		
	学びの手立て ①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために ノートにメモをとるようになる。また、必要に応じてアカデミックアドバイザー、キャリア支援課そして学外機関を利用する。		
	評価 小テスト(50%) + 試験(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、インターンシップ (各学科のみならず、学外の制度も含む)、正課外におけるキャリア支援課の利活用
-------	---

※ポリシーとの関連性 「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能」を教授する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア入門	後期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉、名嘉座、生垣、島袋、井村、藤波、泊、平良	1年	講義全体の運営および試験関係は、村上研究室(5-629)、murakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、大学生活とその先を考えるために設けられた。たとえば「学生として、今何をすれば良いか分からない」、「将来の進路に不安がある」、「大学生活はこんなはずではなかった」などと感じて日々を過ごしている学生も少なくないであろう。本講義のねらいは少しでもこうした不安を解消していくことをねらいとしている。	メッセージ 【実務経験】実務経験者を招聘したオムニバス講義です。個別質問は、各回の担当教員まで (@以降は省略) : 名嘉座研究室(13-215) : nakaza、島袋研究室(5-635) : ituko、生垣研究室(5-527) : k.ikegaki、井村研究室(5-622) : imura、藤波研究室(5-434) : fujinami、泊研究室(5-534) : stomari、平良研究室(13-512) : nntaira
	到達目標 1) 卒業後の進路について主体的に考えることができる。 2) 学生生活の経験を「有意義である」と説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
		回	テーマ
		1	オリエンテーション (村上)
		2	労働の実態 (名嘉座)
		3	卒業生の実態 (島袋)
		4	卒業生の紹介 (島袋)
		5	海外を知る 1 (生垣)
		6	海外を知る 2 (生垣)
		7	正規/非正規 (島袋)
		8	キャリアとお金 (島袋)
		9	ホワイトカラー/ブルーカラー (島袋)
		10	ブラック企業/ブラックバイトを知る (井村)
		11	母校を知る (藤波)
		12	社会人基礎力を知る (生垣)
		13	自分を知る (泊)
		14	キャリア支援課の利用方法 (平良)
		15	まとめより学びを深められる科目の説明ー (村上)
		16	期末試験 (村上)
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に指示する。		時間外学習の内容
	学びの手立て ①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために ノートにメモをとるようになる。また、必要に応じてアカデミックアドバイザー、キャリア支援課そして学外機関を利用する。		公的機関の活用
	評価 小テスト(50%) + 試験(50%)で評価する。		キャリア支援課や校友会の活用
			キャリア支援課や校友会の活用
			インターンシップ説明会への参加
			インターンシップ説明会への参加
			家族や知人との面談
			家族や知人との面談
			家族や知人との面談
			公的機関の活用
			本学「年史」の精読
			模擬面接の実施
			模擬面接の実施
			キャリア支援課の活用
			関連科目のシラバス確認/履修

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、インターンシップ (各学科のみならず、学外の制度も含む)、正課外におけるキャリア支援課の利活用
-------	---

※ポリシーとの関連性 「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能」を教授する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア入門	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉、名嘉座、生垣、島袋、井村、村上、泊、平良	1年	講義全体の運営および試験関係は、村上研究室(5-629)、murakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、大学生活とその先を考えるために設けられた。たとえば「学生として、今何をすれば良いか分からない」、「将来の進路に不安がある」、「大学生活はこんなはずではなかった」などと感じて日々を過ごしている学生も少なくないであろう。本講義のねらいは少しでもこうした不安を解消していくことをねらいとしている。	メッセージ 【実務経験】実務経験者を招聘したオムニバス講義です。個別質問は、各回の担当教員まで (@以降は省略) : 名嘉座研究室(13-215) : nakaza、生垣研究室(5-527) : k.ikegaki、井村研究室(5-622) : imura、泊研究室(5-534) : stomari、平良研究室(13-512) : ntaira
	到達目標 1)卒業後の進路について主体的に考えることができる。 2)学生生活の経験を「有意義である」と説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (村上)	
	2	労働の実態 (名嘉座)	公的機関の活用
3	卒業生の実態 (村上)		キャリア支援課や校友会の活用
4	卒業生の紹介 (村上)		キャリア支援課や校友会の活用
5	海外を知る1 (生垣)		インターンシップ説明会への参加
6	海外を知る2 (生垣)		インターンシップ説明会への参加
7	正規/非正規 (村上)		家族や知人との面談
8	キャリアとお金 (村上)		家族や知人との面談
9	ホワイトカラー/ブルーカラー (村上)		家族や知人との面談
10	ブラック企業/ブラックバイトを知る (井村)		公的機関の活用
11	母校を知る (村上)		本学「年史」の精読
12	社会人基礎力を知る (生垣)		模擬面接の実施
13	自分を知る (泊)		模擬面接の実施
14	キャリア支援課の利用方法 (平良)		キャリア支援課の活用
15	まとめより学びを深められる科目の説明ー (村上)		関連科目のシラバス確認/履修
16	期末試験 (村上)		
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に指示する。		
	学びの手立て ①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために ノートにメモをとるようになる。また、必要に応じてアカデミックアドバイザー、キャリア支援課そして学外機関を利用する。		
	評価 小テスト(50%)+試験(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、インターンシップ (各学科のみならず、学外の制度も含む)、正課外におけるキャリア支援課の利活用
-------	---

※ポリシーとの関連性 「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能」を教授する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア入門	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上、名嘉座、島袋、生垣、井村、髭白、平山、平良	1年	講義全体の運営および試験関係は、村上研究室(5-629)、murakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、大学生活とその先を考えるために設けられた。たとえば「学生として、今何をすれば良いか分からない」、「将来の進路に不安がある」、「大学生活はこんなはずではなかった」などと感じて日々を過ごしている学生も少なくないであろう。本講義のねらいは少しでもこうした不安を解消していくことをねらいとしている。	メッセージ 【実務経験】実務経験者を招聘します。個別質問は、各回の担当任教員まで (@以降は省略) : 名嘉座研究室(13-215) : nakaza、島袋研究室(5-635) : ituko、生垣研究室(5-527) : k.ikegaki、井村研究室(5-622) : imurap、髭白研究室(5-628) : t.higeshiro、平山研究室(13-211) : atsushi、平良研究室(13-512) : ntaira
	到達目標 1) 卒業後の進路について主体的に考えることができる。 2) 学生生活の経験を「有意義である」と説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (村上)	
	2	労働の実態 (名嘉座)	公的機関の利用
3	卒業生の実態 (島袋)	キャリア支援課や校友会の活用	
4	卒業生の紹介 (島袋)	キャリア支援課や校友会の活用	
5	海外を知る1 (生垣)	インターンシップ説明会への参加	
6	海外を知る2 (生垣)	インターンシップ説明会への参加	
7	正規/非正規 (島袋)	家族や知人との面談	
8	キャリアとお金 (島袋)	家族や知人との面談	
9	ホワイトカラー/ブルーカラー (島袋)	家族や知人との面談	
10	ブラック企業/ブラックバイトを知る (井村)	公的機関の利用	
11	母校を知る (髭白)	本学「年史」の精読	
12	社会人基礎力を知る (生垣)	模擬面接の実施	
13	自分を知る (平山)	模擬面接の実施	
14	キャリア支援課の利用方法 (平良)	キャリア支援課の活用	
15	まとめより学びを深められる科目の説明ー (村上)	関連科目のシラバス確認/履修	
16	期末試験 (村上)		
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に指示する。		
	学びの手立て ①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために ノートにメモをとるようになる。また、必要に応じてアカデミックアドバイザー、キャリア支援課そして学外機関を利用する。		
	評価 小テスト(50%) + 試験(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、インターンシップ (各学科のみならず、学外の制度も含む)、正課外におけるキャリア支援課の利活用
-------	---

※ポリシーとの関連性 「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能」を教授する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア・デザイン	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、企業活動を通して「働く意味」を理解することが目的である。キャリア教育科目群における「キャリア・デザイン」では、1) 企業経営者とはどのような存在なのか、2) 日頃どのようなことを考えて行動しているのか、そして3) 企業は学生に何を求めているのか、などを外部講師によって講演頂くことにする。この講義を端緒にしてキャリア支援課の利活用を促す。</p>	<p>【実務経験】実務経験者を招聘した講義回を設けています。学生の遅刻、早退、居眠りそして私語が社会人の目にどのように映るかを考えて、受講して下さい。</p>
到達目標	<p>1) ビジネスマナーを身につけることができる。 2) 正課外のキャリア(アルバイトや部活をはじめとした授業以外の体験すべて)に価値を見いだすことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (評価の方法、講義の進め方)	ビジネスマナーの習得、企業研究
	2	キャリア支援課の利活用について	自己分析の促進
	3	キャリアと生活に関する講話①	ビジネスマナーの習得、企業研究
	4	キャリアと生活に関する講話②	ビジネスマナーの習得、企業研究
	5	企業関係者とのQ&A①	ビジネスマナーの習得、企業研究
	6	企業関係者とのQ&A②	ビジネスマナーの習得、企業研究
	7	企業関係者とのQ&A③	ビジネスマナーの習得、企業研究
8	前半小括、後半の進め方の確認およびグループ編成		
9	ワークショップ ー進路について考える①ー	傾聴力・発信力の鍛錬	
10	ワークショップ ー進路について考える②ー	傾聴力・発信力の鍛錬	
11	ワークショップ ー進路について考える③ー	傾聴力・発信力の鍛錬	
12	ワークショップ ー進路について考える④ー	傾聴力・発信力の鍛錬	
13	ワークショップ ー進路について考える⑤ー	傾聴力・発信力の鍛錬	
14	ワークショップ ー進路について考える⑥ー	傾聴力・発信力の鍛錬	
15	プレゼン実践①	傾聴力・発信力の鍛錬	
16	プレゼン実践② (予備日を兼ねる)		
テキスト・参考文献・資料など	講義中に指示する。		
学びの手立て	<p>①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために ノートにメモをとるようにする。また、必要に応じてアカデミックアドバイザーやキャリア支援課などを利用する。</p>		
評価	小テスト(50%)＋期末プレゼンテーション (50%) で評価することを前提とする。なお、その他の評価方法は学則による。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 正課外におけるキャリア支援課の利活用。
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能」を教授する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア・デザイン	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、企業活動を通して「働く意味」を理解することが目的である。キャリア教育科目群における「キャリア・デザイン」では、1) 企業経営者とはどのような存在なのか、2) 日頃どのようなことを考えて行動しているのか、そして3) 企業は学生に何を求めているのか、などを外部講師によって講演頂くことにする。この講義を端緒にしてキャリア支援課の利活用を促す。</p>	<p>【実務経験】実務経験者を招聘した講義回を設けています。学生の遅刻、早退、居眠りそして私語が社会人の目にどのように映るかを考えて、受講して下さい。</p>
到達目標	<p>1) ビジネスマナーを身につけることができる。 2) 正課外のキャリア(アルバイトや部活をはじめとした授業以外の体験すべて)に価値を見いだすことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (評価の方法、講義の進め方)	
	2	キャリア支援課の活用、グループ分け (自己紹介)、プレゼンスキルの解説	自己分析・他己分析の実践
	3	企業関係者の講話①	企業研究
	4	企業関係者の講話②	企業研究
	5	企業関係者の講話③	企業研究
	6	企業関係者の講話④	企業研究
	7	企業関係者の講話⑤	企業研究
8	前半小括、後半の進め方の確認およびグループ編成	プレゼン技法の習熟	
9	プレゼン準備 (講演内容の振り返り、グループ学習) ①	プレゼン技法の習熟	
10	プレゼン準備 (講演内容の振り返り、グループ学習) ②	プレゼン技法の習熟	
11	プレゼン準備 (講演内容の振り返り、グループ学習) ③	プレゼン技法の習熟	
12	プレゼン準備 (講演内容の振り返り、グループ学習) ④	プレゼン技法の習熟	
13	プレゼン準備 (講演内容の振り返り、グループ学習) ⑤	プレゼン技法の習熟	
14	プレゼン準備 (講演内容の振り返り、グループ学習) ⑥	プレゼン技法の習熟	
15	プレゼン実践①	質問力の育成	
16	プレゼン実践② (予備日を兼ねる)	質問力の育成	
	テキスト・参考文献・資料など	講義中に指示する。	
	学びの手立て	<p>①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために ノートにメモをとるようにする。また、必要に応じてアカデミックアドバイザーやキャリア支援課などを利用する。</p>	
	評価	小テスト(50%)＋期末プレゼンテーション (50%) で評価することを前提とする。なお、その他の評価方法は学則による。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 正課外におけるキャリア支援課の利活用。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・キャリア	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 和光	1年	村上了太（内線：5629）またはmurakamiあつとokiu.ac.jpまで連絡すること。	

学びの準備	ねらい 大学生生活を充実するために、 ①海外留学 ②海外インターン などを体験したい／知りたいと思っている学生を主たる対象としています。	メッセージ ①7月開催予定のオリエンテーションを受講した学生のみ履修を認めます。掲示板で確認してください。やむを得ず欠席する場合は、問い合わせ先に記載された教員まで連絡してください。なお、登録が削除されても代替科目の履修を提供することはありません。 ②社会人講師にも登壇して頂きます。多様な価値観を吸収するのみならず、様々な質問も投げかけてみてください。
	到達目標 ①卒業後の進路について主体的に考えることができる。 ②学生生活の様々な経験を「有意義である」と説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産官学のキャリア形成から学んだこと	産官学の仕事について調べる
	2	生きる力（1）ー人生と仕事ー	人材に関する『論語』等を読書する
3	海外キャリア形成ーグローバル人材とは何か？ー	グローバル人材について調べる	
4	海外キャリア形成ー沖縄と台湾での起業ー	海外起業家について調べる	
5	生きる力（2）ー人生と仕事ー	稲盛和夫『生き方』を読書する	
6	グローバル企業のアナリストから見た沖縄経済	沖縄経済を知る	
7	グローバルキャリアとローカルキャリアーグローバルキャリアをローカルに活かすー	グローバルキャリアについて調べる	
8	国際環境の変化とグローバル人材育成	国際的な問題について調べる	
9	海外留学のすすめ	留学や奨学金について調べる	
10	海外キャリア形成ーアジアで就職した先輩の事例紹介ー	海外就職について調べる	
11	目標の設定と自己成長ー英国大学院留学と外資系企業勤務ー	自分の目標を記してみる	
12	より良い仕事、よりよい人生とは？ー沖縄和の課題と未来ー	沖縄県の課題について調べる	
13	キャリア形成に必要なコミュニケーション能力	コミュニケーション力を理解する	
14	キャリア形成に活かすセルフブランディング	セルフブランディングを理解する	
15	振り返りおよびグループ学習・発表	自分の目標と行動計画を作成する	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に指示する。		
	学びの手立て ①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために 大学とは「知考書」のプロセスを理解して鍛錬する場でもある。ゆえに、1) ノートにメモをとる、2) 各回の講義の意味を考える、3) 将来像を設計し、機会に応じて意思表示する場を設ける、などが必要である。		
	評価 各回の理解度（25点）、提出物（25点）、試験（50点）の割合で評価する、		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、心理学1、心理学II、インターンシップ（正課および正課外）、海外留学、キャリア支援課の利活用など
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・キャリア・デザイン演習	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 和光	1年	金城和光：kinjoあつとokinawa-hc.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	多文化社会である現代において、地域から世界的に活躍できる国際感覚を学ぶ科目です。なお、プログラムはキャリア教育科目群が指定したものに限定されますので、留意して下さい。	1) 事前オリエンテーションを受講した者のみ、履修を認めるの。また教室や日程に留意すること。 2) 開講日は、①から⑥まで金曜日で、⑦のみ土曜日である。①6月14日3限、②7月5日3-5限、③7月12日3-5限、④7月19日3-5限、⑤7月26日3-5限、⑥8月2日3-5限、⑦9月28日1-4限（4限：報告会）に開催される。なお、予備日程を含む。
到達目標	(1) 派遣された地域における活動を通じて、語学の技能、文化体験そしてボランティア活動からの学びを深めることが出来る。 (2) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることが出来る。 (3) 研究の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことが出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	渡航予定の国・地域の情報把握
	2	海外渡航の準備	必要書類の準備・確認
	3	海外留学・海外体験計画の作成	目的に応じた資料の収集・作成
	4	仕事の基本	キャリア支援課の利活用
	5	社会人マナー	キャリア支援課の利活用
	6	国際環境の変化	グローバル教育支援センターの利用
	7	異文化理解	グローバル教育支援センターの利用
	8	海外キャリア形成	グローバル教育支援センターの利用
	9	海外渡航に関する注意事項	関連書籍の精読
	10	海外留学・海外体験計画書の作成・プレゼンテーション	目的に応じた資料の収集・作成
	11	海外留学・海外体験の振り返り	目的に応じた資料の作成
	12	海外留学・海外体験の成果	目的に応じた資料の作成
	13	グローバル・キャリア・デザイン	目的に応じた資料の作成
14	海外留学・海外体験報告会プレゼンテーション作成	プレゼンソフトの習熟	
15	海外留学・海外体験報告会	プレゼンの反復	
16	海外留学・海外体験報告会	プレゼンの反復	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。必要に応じてプリントを配布する。		
学びの手立て	(1) 出席確認は毎回、厳格に行うため、やむを得ず欠席する場合は、必ずメール等で連絡すること。 (2) 自分の将来と向き合い、主体的に事前調査を行い、「海外留学計画書」を作成すること。		
評価	①毎回の小テストによる理解度（40点） ②与えられた課題への取り組み、及び提出状況（30点） ③最終報告会の報告（30点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 キャリア教育科目群の提供する科目および受講生が所属する学科の科目全般
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・キャリア・デザインA	その他		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	認定科目	1年	村上了太研究室(5629)、murakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 多文化社会である現代において、地域から世界的に活躍できる国際感覚を学ぶ科目です。なお、プログラムはキャリア教育科目群が指定したものに限られますので、留意して下さい。	メッセージ 「グローバル・キャリア・デザイン演習」を履修の上、合格し、さらにキャリア教育科目群が指定するプログラムによって海外留学・海外体験を実施した学生にのみ評価の対象とする。
	到達目標 1) 派遣された地域における活動を通じて、語学の技能、文化体験そしてボランティア活動からの学びを深めることが出来る。 2) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることが出来る。 3) 研究の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことが出来る。”	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	現地コーディネータとの意見交換	海外事情の理解
	2	海外プログラムの実施1	海外事情の理解
	3	海外プログラムの実施2	海外事情の理解
	4	海外プログラムの実施3	海外事情の理解
	5	海外プログラムの実施4	海外事情の理解
	6	海外プログラムの実施5	海外事情の理解
	7	海外プログラムの実施6	海外事情の理解
	8	海外プログラムの実施7	海外事情の理解
9	海外プログラムの実施8	海外事情の理解	
10	海外プログラムの実施9	海外事情の理解	
11	海外プログラムの実施10	海外事情の理解	
12	海外プログラムの実施11	海外事情の理解	
13	海外プログラムの実施12	海外事情の理解	
14	海外プログラムの実施13	海外事情の理解	
15	海外プログラムの実施14	海外事情の理解	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 現地の事情による。現地で配付された資料は、帰国後も保管すること。		
	学びの手立て 渡航希望の国・地域の情報を事前に収集すること。		
	評価 帰国後、キャリア教育科目群に提出された実績報告（書式自由）を基に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 キャリア教育科目群の提供する科目および受講生が所属する学科の科目全般
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・キャリア・デザインB	その他		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	認定科目	1年	村上了太研究室(5629)、murakamiあつとokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 多文化社会である現代において、地域から世界的に活躍できる国際感覚を学ぶ科目です。なお、プログラムはキャリア教育科目群が指定したものに限定されますので、留意して下さい。	メッセージ 「グローバル・キャリア・デザイン演習」を履修の上、合格し、さらにキャリア教育科目群が指定するプログラムによって海外留学・海外体験を実施した学生にのみ評価の対象とする。
	到達目標 (1) 派遣された地域における活動を通じて、語学の技能、文化体験そしてボランティア活動からの学びを深めることが出来る。 (2) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることが出来る。 (3) 研究の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことが出来る。”	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	現地コーディネータとの意見交換	海外事情の理解
	2	海外プログラムの実施1	海外事情の理解
	3	海外プログラムの実施2	海外事情の理解
	4	海外プログラムの実施3	海外事情の理解
	5	海外プログラムの実施4	海外事情の理解
	6	海外プログラムの実施5	海外事情の理解
	7	海外プログラムの実施6	海外事情の理解
	8	海外プログラムの実施7	海外事情の理解
	9	海外プログラムの実施8	海外事情の理解
	10	海外プログラムの実施9	海外事情の理解
	11	海外プログラムの実施10	海外事情の理解
	12	海外プログラムの実施11	海外事情の理解
	13	海外プログラムの実施12	海外事情の理解
	14	海外プログラムの実施13	海外事情の理解
	15	海外プログラムの実施14	海外事情の理解
	16	海外プログラムの実施15	海外事情の理解
	17	海外プログラムの実施16	海外事情の理解
	18	海外プログラムの実施17	海外事情の理解
	19	海外プログラムの実施18	海外事情の理解
	20	海外プログラムの実施19	海外事情の理解
	21	海外プログラムの実施20	海外事情の理解
	22	海外プログラムの実施21	海外事情の理解
	23	海外プログラムの実施22	海外事情の理解
	24	海外プログラムの実施23	海外事情の理解
	25	海外プログラムの実施24	海外事情の理解
	26	海外プログラムの実施25	海外事情の理解
	27	海外プログラムの実施26	海外事情の理解
	28	海外プログラムの実施27	海外事情の理解
	29	海外プログラムの実施28	海外事情の理解
30	海外プログラムの実施29	海外事情の理解	
31	予備日		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 現地の事情による。現地で配付された資料は、帰国後も保管すること。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 渡航希望の国・地域の情報を事前に収集すること。</p>
	<p>評価 帰国後、キャリア教育科目群に提出された実績報告（書式自由）を基に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 キャリア教育科目群の提供する科目および受講生が所属する学科の科目全般</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	自己表現入門	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大田 よしみ	2年	授業開始前・終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生生活の充実や就職活動への活用等に位置づけられているキャリア科目群の1つである自己表現入門は、講義全体を通して「発信力」と「傾聴力」の向上を軸にコミュニケーション能力を身に付け、自らをプレゼンテーションする力の必要性を学んでいきます。また、社会に有用な学生の人材の育成もねらいとしています。</p>	<p>全講義において一方的なレクチャーではなく、ワークを通して将来必要となってくるコミュニケーション能力を次第に身に付けられたり、参加・体験することの楽しさを知り、行動することで学びや気づきを得ていきながら、自分の将来に向き合うことができます。また、受講メンバーと触れ合いながら、4か月の受講終了後には発信力や関係構築力も養われています。</p>
到達目標	<p>自己表現入門ではキャリア科目の一講義として「働く意味」を理解することが目的である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えをプレゼンテーションできるスキルを習得する 2. ①自分はどういう人物なのか、②ビジネス文書と通常の文書の違いとは何か、③傾聴力と発信力とは何か、を理解する 3. 就職活動や社会において必要なコミュニケーション能力を習得する。 4. 社会が求める能力を理解し、大学生活における学内・学外の活動に繋げて人間力を高める 5. 面接の重要性と実践、自己PR実践など、就職活動において必須となる基盤づくりに取り組む。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義で気づいた自己課題に取り組む
	2	就職活動の進め方	自分の就職希望先を調べる
	3	就職試験の概要	講義で気づいた自己課題に取り組む
	4	自分を知る①ー今の自分を知るー	同上
	5	自分を知る②ー他人から見た自分ー	同上
	6	自分を知る③ーこれからの自分について考えるー	同上
	7	ビジネス用語について	同上
	8	ビジネス文書の記述方法	ビジネス文書を作成 提出
	9	企業から学ぶ（企業が求める人材とは）	講義で気づいた自己課題に取り組む
	10	文章表現①（新聞記事を読み込んでレポート作成）	同上
	11	文章表現②（自己PRシートの作成）	自己PR文を作成
	12	自己PR実践①（模擬面接）	講義で気づいた自己課題に取り組む
	13	自己PR実践②（模擬面接）	同上
	14	自己PR実践③（模擬面接）	同上
15	ジョブインタビュー入門とのセッション	同上	
16	期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストはありません。講義内容に必要なワークシート等を当日配布予定。</p>
----	---

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全講義において座学はなく、すべてワーク形式となっています。参加・体験することで学びや気づきを得る内容となっています。 2. ワーク形式のため、参加態度が大きく関わってきます。ただ黙って座っているだけでは参加していないこととなります。居眠り、私語、ワーク不参加、携帯電話の私的使用は減点対象となります。 3. 遅刻は減点対象となります。講義開始30分以上の遅刻、30分以上の早退は欠席となります。 4. 学則として欠席5回以上は評価対象外となります。欠席の場合は欠席届けを提出すること。 5. キャリア支援課開催のセミナー・イベントへの参加推奨
--------	--

評価	<p>参加型講義のため、講義内容の理解度や個人ワークやグループワーク等の参加度を評価対象とします。</p> <p>①理解度及び参加度・・・60% ②提出物（講義毎の振り返りレポート・課題、総論レポート等）の有無及び完成度・・・40%</p> <p>*参加型及び連続性のある講義のため、ワーク不参加、私語や居眠り、質疑応答の程度、遅刻等も減点対象となります。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)キャリア入門 (2)ジョブインタビュー入門 (3)キャリア・デザイン (4) グローバル・キャリア (5) グローバル・キャリア・デザイン演習 (6) ワーカーズコープ論 ※(4)から(6)の科目は集中講義</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	自己表現入門	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大田 よしみ	2年	授業開始前・終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生生活の充実や就職活動への活用等に位置づけられているキャリア科目群の1つである自己表現入門は、講義全体を通して「発信力」と「傾聴力」の向上を軸にコミュニケーション能力を身に付け、自らをプレゼンテーションする力の必要性を学んでいきます。また、社会に有用な学生の人材の育成もねらいとしています。</p>	<p>全講義において一方的なレクチャーではなく、ワークを通して将来必要となってくるコミュニケーション能力を次第に身に付けられたり、参加・体験することの楽しさを知り、行動することで学びや気づきを得ていきながら、自分の将来に向き合うことができます。また、受講メンバーと触れ合いながら、4か月の受講終了後には発信力や関係構築力も養われています。</p>
到達目標	<p>自己表現入門ではキャリア科目の一講義として「働く意味」を理解することが目的である。</p> <p>1. 自分の考えをプレゼンテーションできるスキルを習得する</p> <p>2. ①自分はどういう人物なのか、②ビジネス文書と通常の文書の違いとは何か、③傾聴力と発信力とは何か、を理解する</p> <p>3. 就職活動や社会において必要なコミュニケーション能力を習得する。</p> <p>4. 社会が求める能力を理解し、大学生活における学内・学外の活動に繋げて人間力を高める</p> <p>5. 面接の重要性と実践、自己PR実践など、就職活動において必須となる基盤づくりに取り組む。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	講義で気づいた自己課題に取り組む
	2	就職活動の進め方	自分の就職希望先を調べる
	3	就職試験の概要	講義で気づいた自己課題に取り組む
	4	自分を知る①ー今の自分を知るー	同上
	5	自分を知る②ー他人から見た自分ー	同上
	6	自分を知る③ーこれからの自分について考えるー	同上
	7	ビジネス用語について	同上
	8	ビジネス文書の記述方法	ビジネス文書を作成 提出
	9	企業から学ぶ（企業が求める人材とは）	講義で気づいた自己課題に取り組む
	10	文章表現①（新聞記事を読み込んでレポート作成）	同上
	11	文章表現②（自己PRシートの作成）	自己PR文を作成
	12	自己PR実践①（模擬面接）	講義で気づいた自己課題に取り組む
	13	自己PR実践②（模擬面接）	同上
	14	自己PR実践③（模擬面接）	同上
15	ジョブインタビュー ポスターセッション	同上	
16	総論（考察及びレポート提出）	全講義内容の振り返り	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストはありません。講義内容に必要なワークシート等を当日配布予定。</p>
----	---

学びの手立て	<p>1. 全講義において座学はなく、すべてワーク形式となっています。参加・体験することで学びや気づきを得る内容となっています。</p> <p>2. ワーク形式のため、参加態度が大きく関わってきます。ただ黙って座っているだけでは参加していないこととなります。居眠り、私語、ワーク不参加、携帯電話の私的使用は減点対象となります。</p> <p>3. 遅刻は減点対象となります。講義開始30分以上の遅刻、30分以上の早退は欠席となります。</p> <p>4. 学則として欠席5回以上は評価対象外となります。欠席の場合は欠席届けを提出すること。</p> <p>5. キャリア支援課開催のセミナー等への参加推奨</p>
--------	---

評価	<p>参加型講義のため、講義内容の理解度や個人ワークやグループワーク等の参加度を評価対象とします。</p> <p>①理解度及び参加度・・・60% ②提出物（講義毎の振り返りレポート・課題、総論レポート等）の有無及び完成度・・・40%</p> <p>*参加型及び連続性のある講義のため、ワーク不参加、私語や居眠り、質疑応答の程度、遅刻等も減点対象となります。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)キャリア入門 (2)ジョブインタビュー入門 (3)キャリア・デザイン (4) グローバル・キャリア</p> <p>(5) グローバル・キャリア・デザイン演習 (6) ワーカーズコープ論 ※(4)から(6)の科目は集中講義</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学に入学時から自分の卒業後の姿や就業観を育成するためにキャリア教育科目群の1つとして設置されている。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジョブ・インタビュー入門	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-松堂 美和子	2年	授業終了時に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問とプレゼンテーションを中心とする講義を通して「働く意味」を理解する。 自分の卒業後の姿や就業観を育成する。 「大学の学びを実社会でどう活かすか」を考えさせる。 	<p>グループで企業訪問し、OB・OGへインタビューをする活動があるため、基本動作（報告・連絡・相談）の徹底が求められます。また、授業外での取り組みもあるため、グループ間で事前に連絡を取り合う等の協調性が問われます。一見、ボリュームのある講義ですが、自らの将来設計にきっと役立ちますので、特に“自分を変えたい”、“自分に自信をもちたい”と思っている学生を歓迎します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> OB・OG訪問を通して、「何かに気づき」「気づきを計画に変える」ことで目標に向けて第一歩を踏み出すことができる。 学生から社会へスムーズに移行するために、「今、何をすべきか」を明確にすることができる。 実際に活躍する先輩社員と接することで、理想とする社会人像を描くことができ、残りの学生生活を、目的意識をもって取り組むことができる。 学外の多くの「おとな」に触れるので、人と接することへの緊張感・抵抗感をコントロールする力が身につく。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスをよく読む
	2	「働くとは？」を考える	テーマに関連する文献の収集
	3	内的キャリアと外的キャリア	レジュメの作成
	4	取材力をUPさせるには	テーマに関連する文献の収集
	5	第1回 社会人インタビューのための事前準備	対象者にインタビューを実施
	6	グループ討論 社会人のキャリアを分析する①	文献の情報収集、レジュメの作成
	7	グループ討論 社会人のキャリアを分析する②	中間発表に向けて準備
8	中間発表	振り返り及びレジュメの作成	
9	第2回 社会人インタビューのための事前準備①	インタビューに向けて準備	
10	第2回 社会人インタビューのための事前準備②	グループ活動	
11	第2回 社会人インタビュー事前、事後の取り組み	グループ活動	
12	グループ議論 社会人のキャリアを分析する③	レジュメの作成	
13	プレゼンテーションに向けて事前準備	プレゼンテーションに向けて準備	
14	プレゼンテーション	キャリア支援課の利活用	
15	ポスターセッションに向けて事前準備	キャリア支援課の利活用	
16	ポスターセッション	ポスターセッションに向けて準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> テキスト：指定しない。プリントを配布する。 	
学びの手立て	履修の心構え	<ul style="list-style-type: none"> 出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず欠席する場合は必ずメール等で連絡をすること。 企業訪問に向けて事前準備及び企業、メンバー同士の調整事項が多々あるため、自らの役割と責任をきちんと果たすこと。 企業訪問、ポスターセッション、指定の課外講座に参加すること（詳細はオリエンテーションで説明） 	
評価		<ul style="list-style-type: none"> 平常点（30点）授業時間中の質問や発言、取り組みを評価する。 フィールドワーク（30点）与えられた課題への取り組み、提出状況の評価する。 中間報告及びポスターセッション、レポート（50点）单元ごとに課す課題の提出状況、到達度を評価する。 	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援課を利活用し、学生生活における目標設定や卒業後の進路決定に向けて必要な知識等を得る。 関連科目「キャリア入門」「自己表現入門」「キャリア・デザイン」の履修を推奨する。

※ポリシーとの関連性

本講義は、本学に入学時から自分の卒業後の姿や就業観を育成するためにキャリア教育科目群の1つとして設置されている。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジョブ・インタビュー入門	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-松堂 美和子	2年	授業終了時に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問とプレゼンテーションを中心とする講義を通して「働く意味」を理解する。 自分の卒業後の姿や就業観を育成する。 「大学の学びを実社会でどう活かすか」を考えさせる。 	<p>グループで企業訪問し、OB・OGへインタビューをする活動があるため、基本動作（報告・連絡・相談）の徹底が求められます。また、授業外での取り組みもあるため、グループ間でために連絡を取り合う等の協調性が問われます。一見、ボリュームのある講義ですが、自らの将来設計にきっと役立ちますので、特に“自分を変えたい”、“自分に自信をもちたい”と思っている学生を歓迎します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> OB・OG訪問を通して、「何かに気づき」「気づきを計画に変える」ことで目標に向けて第一歩を踏み出すことができる。 学生から社会へスムーズに移行するために、「今、何をすべきか」を明確にすることができる。 実際に活躍する先輩社員と接することで、理想とする社会人像を描くことができ、残りの学生生活を目的意識をもって取り組むことができる。 学外の多くの「おとな」に触れるので、人と接することへの緊張感・抵抗感をコントロールする力が身につく。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスをよく読む
	2	「働くとは？」を考える	テーマに関連する文献の収集
	3	内的キャリアと外的キャリア	レジュメの作成
	4	取材力をUPさせるには	テーマに関連する文献の収集
	5	第1回 社会人インタビューのための事前準備	対象者にインタビューを実施
	6	グループ討論 社会人のキャリアを分析する①	文献の情報収集、レジュメの作成
	7	グループ討論 社会人のキャリアを分析する②	中間発表に向けて準備
8	中間発表	振り返り及びレジュメの作成	
9	第2回 社会人インタビューのための事前準備①	インタビューに向けて準備	
10	第2回 社会人インタビューのための事前準備②	グループ活動	
11	第2回 社会人インタビュー事前、事後の取り組み	グループ活動	
12	グループ議論 社会人のキャリアを分析する③	レジュメの作成	
13	プレゼンテーションに向けて事前準備	プレゼンテーションに向けて準備	
14	プレゼンテーション	キャリア支援課の利活用	
15	ポスターセッションに向けて事前準備	キャリア支援課の利活用	
16	ポスターセッション	ポスターセッションに向けて準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> テキスト：指定しない。プリントを配布する。 	
	学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> 出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず欠席する場合は必ずメール等で連絡をすること。 企業訪問に向けて事前準備及び企業、メンバー同士の調整事項が多々あるため、自らの役割と責任をきちんと果たすこと。 企業訪問、ポスターセッション、指定の課外講座に参加すること（詳細はオリエンテーションで説明） 	
	評価	<ul style="list-style-type: none"> 平常点（30点）授業時間中の質問や発言、取り組みを評価する。 フィールドワーク（30点）与えられた課題への取り組み、提出状況の評価する。 中間報告及びポスターセッション、レポート（50点）单元ごとに課す課題の提出状況、到達度を評価する。 	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援課を利活用し、学生生活における目標設定や卒業後の進路決定に向けて必要な知識等を得る。 関連科目「キャリア入門」、「自己表現入門」、「キャリア・デザイン」、「グローバル・キャリア（※）」、「グローバル・キャリア・デザイン演習（※）」、「ワーカーズコープ論（※）」※夏期集中講義…学期初めの掲示板を要確認

※ポリシーとの関連性

「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能」を教授する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ワーカーズコープ論	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_相良 孝雄、_村上 了太、_高橋 弘幸	1年	村上了太(内線:5629)またはmurakamiあつとokiu.ac.jpまで連絡すること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、現在と将来を考えるために設置された。たとえば、「学生として、今何をすべきか分からない」、「進路を考えると不安になる」、「大学生活はこんなはずではなかった」などと感じて日々過ごしている学生も少なくない。このような不安や不満は、本講義で示唆される「一歩前へ踏み出す力」を涵養することで解消される。</p> <p>到達目標</p> <p>①卒業後の進路について主体的に考えることができる。 ②学生生活の様々な経験を「有意義である」と説明できるようになる。 ③「働くとは？」という考えに対して多角的な視点が生まれてくる。</p>	<p>①社会人講師にも登壇して頂きます。多様な価値観を吸収するのみならず、質問も投げかけてみてください。 ②時間厳守は当然のことです。 ③レポートは講義中に提出期日と課題を指示します。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>3</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>4</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>5</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>6</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>7</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>8</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>9</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>10</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>11</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>12</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>13</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>14</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>15</td><td>本講義もまとめ(働くこと、生きること)</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>16</td><td>予備日</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション	関連書籍による理解	2	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①	関連書籍による理解	3	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②	関連書籍による理解	4	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③	関連書籍による理解	5	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④	関連書籍による理解	6	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤	関連書籍による理解	7	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥	関連書籍による理解	8	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦	関連書籍による理解	9	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧	関連書籍による理解	10	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨	関連書籍による理解	11	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩	関連書籍による理解	12	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪	関連書籍による理解	13	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫	関連書籍による理解	14	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬	関連書籍による理解	15	本講義もまとめ(働くこと、生きること)	関連書籍による理解	16	予備日		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション	関連書籍による理解																																																			
2	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①	関連書籍による理解																																																			
3	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②	関連書籍による理解																																																			
4	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③	関連書籍による理解																																																			
5	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④	関連書籍による理解																																																			
6	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤	関連書籍による理解																																																			
7	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥	関連書籍による理解																																																			
8	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦	関連書籍による理解																																																			
9	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧	関連書籍による理解																																																			
10	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨	関連書籍による理解																																																			
11	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩	関連書籍による理解																																																			
12	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪	関連書籍による理解																																																			
13	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫	関連書籍による理解																																																			
14	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬	関連書籍による理解																																																			
15	本講義もまとめ(働くこと、生きること)	関連書籍による理解																																																			
16	予備日																																																				
	テキスト・参考文献・資料など																																																				
	講義中に指示する。																																																				
	学びの手立て																																																				
	<p>①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。</p> <p>②学びを深めるために 大学とは「知考書」のプロセスを理解して鍛錬する場でもある。ゆえに、1)ノートにメモをとる、2)各回の講義の意味を考える、3)将来像を設計し、機会に応じて意思表示する場を設ける、などが必要である。</p>																																																				
	評価																																																				
	各回の理解度(25点)、提出物(25点)、レポート(50点)の割合で評価する。																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
	ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、インターンシップ(正課および正課外)、海外留学、キャリア支援課の利活用、県内外に存する関連施設の視察など。